

三重県中伊勢工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

津市を中心とする中勢地区の臨海部は、戦前から繊維工業を中心に発展してきた。この地域の既存の工業用水は、地下水及び上水道に依存していたが、地下水については水質が悪化する傾向にあり、上水道についても人口の増加及び生活様式の変化などにより水不足が生じてきた。更に津市伊倉津地区及び高茶屋地区に新規企業が進出することになり、水需要の増大が見込まれた。

このような状況から、工業用水を安定的に確保し、県中勢地域の産業の振興に資することを目的として昭和44年に事業着手した。

○事業の経緯

昭和44年4月、雲出川総合開発事業の一環として建設される君ヶ野ダムを水源とする本事業の建設に着手し、昭和46年5月から一部給水を開始したが、昭和47年度で当面の水需要に対する給水能力を整備し、その後昭和50年度及び昭和54年度、平成8年度から平成11年度に、新規給水等に対処するための配水施設を整備して以来、先行投資的建設を避けるため建設事業を休止している。

○ユーザーの概要

(平成18年4月1日現在)

業種	給水件数	基本水量 (m ³ /日)
鉄鋼	2	700
化学工業	2	1,600
窯業	1	4,000
金属製品	1	3,540
電気機械	2	1,550
電子部品	1	2,500
繊維	1	3,300
食品	2	1,700
その他	2	700
合計	14	19,590

○工業用水道施設の概要

本事業は、県内河川の雲出川を水源とし、河床に埋設する有孔管により伏流水を取水している。

取水した水は、良質な水質を保っていることから、浄水過程を経ず直接配水される。

導・配水管は、口径100mm～800mm、総延長約38kmを有し、ポンプ加圧により各配水池へ送水し所定圧力を保ったうえで、主に津市臨海部やニューファクトリーひさい工業団地の受水企業へ配水される。

総配水能力は日量33,000m³ (計画50,000m³) を抱える。

○事業の特徴

本事業は、伏流水取水の形態をとることから、浄水処理をせずとも良質な水の安定供給が可能となっている。

未売水対策の成果もあり、平成16度には、ピークの24,590m³/日の契約となったが、その後に大口ユーザーの撤退等があり、現在、19,590m³/日の契約にとどまっている。

また、契約率が約60%と低いことから、撤退等による契約水量の減量が、経営悪化や高料金化に直結することとなるため、未売水対策や一層の経営効率化が急務となっている。

○施設概要図

